

東京・ふるさとショップ探訪

〔第1回〕

アンテナショップ、人気スポットは日本橋界限

✦ 文 山田 稔 Text by Minoru Yamada ✦



日本橋とやま館

東京にいなから、ふるさとの特産品の購入、最新の観光情報収集などに便利な自治体アンテナショップの人氣が再燃している。一般財団法人地域活性化センターの「平成29年度自治体アンテナショップ実態調査報告」によると、都内には全国72自治体のショップが存在する（独立店舗は56）。調査時点の昨年4月1日以降も、「福岡久留米館」（新橋）、広島県府中市の「NEKI」（神田）、「ここ滋賀」（日本橋）が出店。今年（2018年）2月には渋谷に宿泊施設を備えた徳島県の「ターンテーブル」がオープンした。

2017年度の入館者数をみると、独立店舗で年間50万人以上は14店で全体の25%。年間売上額が5億円以上は9店で16%だった。入館者がもっとも

多いのは「北海道どさんこプラザ有楽町店」でなんと200万人超。100万人以上は「とちまるショップ」「表参道新潟館ネスパス」「銀座わしたショップ」。売上額上位は「北海道どさんこプラザ有楽町店」「ひろしまブランドショップTAU」「銀座わしたショップ」で7億円以上10億円未満となっている。

アンテナショップ開設の目的は、自治体のPR、特産品のPR、特産品の販路拡大、地域情報発信、観光案内・誘客、田舎暮らし・UJITAターンなどが多い。実際の運営効果としては、自治体や特産品の知名度アップ、特産品の販路拡大、地域情報発信が多く、前年度の調査結果に比べて増えたのは、観光客の増加、田舎暮らし・UJITAター

ン。従来の物品販売だけでなく、地域活性化につながる人の流れにも好影響が出ていることがうかがえる。なかには「とっとり・おかやま新橋館」のように、効果として高校生の学習利用を挙げる店舗も。学びの場にもなっているのだ。

アンテナショップといえば、以前は銀座・有楽町エリアへ

の出店が多かったが、最近はどうなのか。都内分布図を見ると、最多は銀座・有楽町の21店で、次が東京・日本橋・神田の11店となっている。この数年は「日本橋長崎館」（2016年3月）、「日本橋とやま館」（2016年6月）、「ここ滋賀」（2017年10月）など、再開発が進む日本橋エリアへの出店が目立つ。

次回からは、ふるさとを体感できる魅力のアンテナショップめぐりの旅を始めよう。



profile

1960年生まれ長野県出身。日刊ゲンダイ経済編集部長、広告局次長を経て独立。編集工房レーヴ代表。著書に「酒と温泉を楽しむ「B級」山歩き」（光文社知恵の森文庫）、「分煙社会のススム。」（光文社）など。「美楽」創刊当時に山歩きエッセイを連載。